

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン サッポロシリツダイガク 公立大学法人 札幌市立大学								
フリガナ大学の名称	サッポロシリツダイガクダイガクイン 札幌市立大学大学院 (Graduate School of Sapporo City University)								
大学本部の位置	北海道札幌市南区芸術の森1丁目								
大学の目的	札幌市立大学大学院は、人間重視の考え方を基盤として学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、知と創造の拠点として札幌市におけるまちづくり全体により大きな価値を生み出し、地域社会に対する積極的な貢献を果たすことを目的とする。								
新設学部等の目的	デザイン研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たす。 看護学研究科は、保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	デザイン研究科 [Graduate School of Design] デザイン専攻 [Course of Design]	2	18	-	36	修士(デザイン学)	平成22年4月 第1年次	札幌市南区 芸術の森1丁目	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Course of Nursing]	2	18	-	36	修士(看護学)	平成22年4月 第1年次	札幌市中央区 北11条西13丁目	
	計		36		72				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	デザイン研究科	29 科目	6 科目	2 科目	37 科目	30 単位			
看護学研究科	36 科目	20 科目	5 科目	61 科目	30単位又は34単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	デザイン研究科	13人 (13)	2人 (2)	4人 (4)	-人 (-)	19人 (19)	-人 (-)	14人 (14)
		看護学研究科	11人 (11)	3人 (3)	7人 (7)	-人 (-)	21人 (21)	-人 (-)	24人 (24)
		計	24人 (24)	5人 (5)	11人 (11)	-人 (-)	40人 (40)	-人 (-)	38人 (38)
	既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
			- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	合計		24人 (24)	5人 (5)	11人 (11)	-人 (-)	40人 (40)	-人 (-)	38人 (38)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体								
	事 務 職 員		32 ( 29 )	22 ( 22 )	54 ( 49 )									
	技 術 職 員		2 ( 2 )	2 ( 2 )	4 ( 4 )									
	図 書 館 専 門 職 員		1 ( 1 )	9 ( 9 )	10 ( 10 )									
	そ の 他 の 職 員		- ( - )	2 ( 2 )	2 ( 2 )									
	計		35 ( 32 )	35 ( 35 )	70 ( 67 )									
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体								
	校 舎 敷 地	162,626.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	162,626.75 m <sup>2</sup>									
	運 動 場 用 地	18,102.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	18,102.00 m <sup>2</sup>									
	小 計	180,728.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	180,728.75 m <sup>2</sup>									
	そ の 他	5,040.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	5,040.00 m <sup>2</sup>									
	合 計	185,768.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	185,768.75 m <sup>2</sup>									
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体								
		34,941.82 m <sup>2</sup> ( 34,941.82 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	34,941.82 m <sup>2</sup> ( 34,941.82 m <sup>2</sup> )									
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体								
	29 室	33 室	23 室	6 室 (補助職員 -人)	0 室 (補助職員 -人)									
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体								
		デザイン研究科		39 室										
		看護学研究科		42 室										
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	芸術の森キャンパス 桑園キャンパス						
	デザイン研究科	70,257 [8,890] (66,477 [8,270])	790 [439] ( 746 [435] )	380 [380] (380 [380] )	3,095 (2,795)	6,200 (5,900)	1,725 (1,725)							
	看護学研究科	30,427 [1,323] (27,821 [1,237])	196 [120] (196 [120] )	115 [115] (115 [115] )	933 (813)	5,400 (5,300)	600 (600)							
	計	100,684 [10,213] (94,298 [9,507])	986 [559] (942 [555] )	495 [495] (495 [495] )	4,028 (3,608)	11,600 (11,200)	2,325 (2,325)							
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体							
		2,002.29 m <sup>2</sup>		223 席	110,000 冊									
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体							
		2,661.12 m <sup>2</sup>		テニスコート (2面)		トレーニング室								
経 費 積 び 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には電子ジャーナルの整備費(運用コスト含む)を含む。	
			実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系						
		教 員 1 人 当 り 研 究 費 等	教授			1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			准教授			1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			講師			820千円	380千円	820千円	380千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助教			513千円	293千円	513千円	293千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助手			450千円	230千円	450千円	230千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等			17,000千円		17,000千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	30,877千円		30,877千円		30,877千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	設備購入費	33,000千円		33,000千円		33,000千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生1人当り納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
	818千円		536千円		— 千円		— 千円		— 千円		— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			札幌市からの運営費交付金を充当する。											

既設 大学等 の 状 況	大 学 の 名 称	札幌市立大学 (Sapporo City University)							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	デザイン学部 デザイン学科 看護学部 看護学科	年	人	年次 人	人	学士(デザイン学)	倍		
		4	80	3年次 20	360	学士(看護学)	1.04	平成18年度	札幌市南区 芸術の森1丁目
		4	80	3年次 10	340		1.03	平成18年度	札幌市中央区 北11条西13丁目
附属施設の概要		名 称：札幌市立大学サテライトキャンパス 目 的：地域連携研究センター（市民公開講座、リエゾン機能等） 所在地：札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命ビル5階 設置年月：平成18年10月 規模等：193㎡（専有面積）							

教育課程等の概要															
(デザイン研究科デザイン専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前		2		○								兼4	オムニバス
	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○			1						
	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○								兼3	オムニバス
	地域経済政策特論	1・2 後		2		○								兼1	
	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○								兼1	
	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○			1						
	連携プロジェクト演習	1 通		2			○		12	2	4				兼20
小計(7科目)		—	0	14	0	—			12	2	4	0	0		
基本科目	デザイン特論	1 前	2			○			1						
	デザイン研究法	1 前		2		○			2		1				オムニバス
	デザインマネジメント特論	1 前		2		○			1					兼1	オムニバス
小計(3科目)		—	2	4	0	—			4	0	1	0	0		
専門教育科目	展開科目	建築計画特論	1・2 前	2		○					1				
	建築環境学特論	1・2 後	2		○						1				
	建築構造デザイン特論	1・2 前	2		○									兼1	
	日本建築史特論	1・2 後	2		○				1						
	景観デザイン特論	1・2 前	2		○				1						
	地域環境評価特論	1・2 後	2		○				2						オムニバス
	環境共生デザイン特論	1・2 前	2		○									兼2	オムニバス
	環境マネジメント特論	1・2 後	2		○									兼1	
	製品造形特論	1・2 前	2		○				1						
	製品評価特論	1・2 後	2		○						1				
	メカトロニクス特論	1・2 前	2		○						1				
	インタフェースデザイン特論	1・2 後	2		○				1						
	インタラクションデザイン特論	1・2 前	2		○					1					
	形状情報処理特論	1・2 後	2		○				1						
	造形表現特論	1・2 前	2		○				1						
	映像デザイン特論	1・2 後	2		○				1						
	ビジュアルデザイン特論	1・2 前	2		○				1						
	現代芸術特論	1・2 後	2		○				1						
	メディアプロデュース特論	1・2 前	2		○									兼1	
	地域ブランド構築特論	1・2 後	2		○									兼1	
デザイン特別演習	1 前・後	2				○		12	1	4					
小計(21科目)		—	2	40	0	—			12	1	4	0	0		
実践科目	地域プロジェクト演習	2 前	2			○			11	1	4				
	地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前	2			○			1						
	地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後	2			○			1						
	インターンシップI	1・2 休*	2					○	11						
	インターンシップII	1・2 休*	4					○	1		2				
小計(5科目)		—	2	6	4	—			12	1	4				
研修了	特別研究	1~2 通	6				○		12	1	4	0	0		
小計(1科目)		—	6	0	0	—									
合計(37科目)		—	12	64	4	—			13	2	4	0	0		
学位又は称号		修士(デザイン学)		学位又は学科の分野				美術関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
研究科連携科目から4単位以上、基本科目から4単位以上(必修2単位を含む)、展開科目から12単位以上(必修2単位を含む)、実践科目から4単位以上(必修2単位を含む)、特別研究を6単位、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文または特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

\* インターンシップI及びインターンシップIIは夏季休業期間中に実施する。

別記様式第2号(その2)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(デザイン研究科デザイン専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科連携科目	連携プロジェクト演習	1 通		2				○			12	2	4		兼20
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			12	2	4	0	0		
基本科目	デザイン特論	1 前	2					○			1				
	デザイン研究法	1 前		2				○			2		1		
	デザインマネジメント特論	1 前		2				○			1				兼1
	小計(3科目)	—	2	4	0	—			4	0	1	0	0		
専門教育科目	展開科目														
	建築計画特論	1・2 前		2				○					1		
	建築環境学特論	1・2 後		2				○					1		
	建築構造デザイン特論	1・2 前		2				○							兼1
	日本建築史特論	1・2 後		2				○			1				
	景観デザイン特論	1・2 前		2				○			1				
	地域環境評価特論	1・2 後		2				○			2				兼1
	環境共生デザイン特論	1・2 前		2				○							兼2
	環境マネジメント特論	1・2 後		2				○							兼1
	製品造形特論	1・2 前		2				○			1				
	製品評価特論	1・2 後		2				○					1		
	メカトロニクス特論	1・2 前		2				○					1		
	インタフェースデザイン特論	1・2 後		2				○			1				
	インタラクションデザイン特論	1・2 前		2				○				1			
	形状情報処理特論	1・2 後		2				○			1				
	造形表現特論	1・2 前		2				○			1				
	映像デザイン特論	1・2 後		2				○			1				
	ビジュアルデザイン特論	1・2 前		2				○			1				
現代芸術特論	1・2 後		2				○			1					
メディアプロデュース特論	1・2 前		2				○							兼1	
地域ブランド構築特論	1・2 後		2				○							兼1	
デザイン特別演習	1 前・後	2						○		12	1	4			
小計(21科目)	—	2	40	0	—			12	1	4	0	0			
実践科目	地域プロジェクト演習	2 前	2					○		11	1	4			
	地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前		2				○		1					
	地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後		2				○		1					
	インターンシップI	1・2 休*		2					○	11					
	インターンシップII	1・2 休*			4				○	1		2			
小計(5科目)	—	2	6	4	—			12	1	4					
研修	特別研究	1~2 通	6					○		12	1	4	0	0	
小計(1科目)	—	6	0	0	—										
合計(31科目)			—	12	52	4	—			13	2	4	0	0	
学位又は称号		修士(デザイン学)		学位又は学科の分野				美術関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
研究科連携科目から4単位以上、基本科目から4単位以上(必修2単位を含む)、展開科目から12単位以上(必修2単位を含む)、実践科目から4単位以上(必修2単位を含む)、特別研究を6単位、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文または特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

※ インターンシップI及びインターンシップIIは夏季休業期間中に実施する。

別記様式第2号(その2)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(デザイン研究科デザイン専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前		2		○									兼4	オムニバス
	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○			1							
	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○									兼3	オムニバス
	地域経済政策特論	1・2 後		2		○									兼1	
	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○									兼1	
	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○				1						
	連携プロジェクト演習	1 通		2				○	12	2	4				兼20	
小計(7科目)		—	0	14	0	—	—	12	2	4	0	0				
専門教育科目	基本科目															
	小計(0科目)		—	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0			
	展開科目															
	小計(0科目)		—	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0			
実践科目																
	小計(0科目)		—	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0			
研修																
小計(0科目)		—														
合計(7科目)		—	0	14	0	—	—	12	2	4	0	0				
学位又は称号		修士(デザイン学)			学位又は学科の分野			美術関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
研究科連携科目から4単位以上、基本科目から4単位以上(必修2単位を含む)、展開科目から12単位以上(必修2単位を含む)、実践科目から4単位以上(必修2単位を含む)、特別研究を6単位、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文または特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(デザイン研究科デザイン専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科連携科目	国際関係特論	<p>（概要） 本講義はデザイン研究科、看護学研究科の学生が、将来、高度専門職業人として社会で活躍する上で必要となる諸外国の状況、異文化、国際関係について理解を深める。特に我が国の国際保健活動や国際看護活動等、身近なテーマを取り上げ、その背景にある諸外国の民族性や文化を理解しつつ、国際関係を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（25 スーディ神崎和代／5回） 10年の看護実践経験と15年以上に及ぶ諸外国での医療施設立ち上げに先立っての人口統計・保健・経済状況調査、関係政府機関との調整、医療施設開設後の運営・管理・教育の経験から米国・南米を中心に国際関係を学ぶ。</p> <p>（40 南 裕子／4回） 日本と諸外国との国際協力体制、国際看護活動から国際関係を理解する。</p> <p>（41 玉城 英彦／4回） WHOの歴史的背景・組織・役割、世界的な感染症などの課題への戦略から国際関係を考察する。</p> <p>（31 大野 夏代／2回） JICAの技術協力の位置づけと活動から国際関係と国際協力を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	少子高齢社会特論	<p>デザイン及び看護分野の高度専門職業人として必要な基本的知識として、今後の少子高齢社会の将来動向について学ぶ。具体的には北海道と札幌市に焦点をあて、国立社会保障人口問題研究所の統計データや将来推計などをもとに、わが国全体における少子高齢社会の到来とその背景、その中における北海道と札幌市の地域特性、将来動向について学ぶとともに、それらの変化が、地域社会、ライフスタイル、家族関係、地域経済、地域福祉などに与える影響と、そこからどのような都市再生のための長期戦略デザインが必要かを考える。</p>	
	健康福祉政策特論	<p>（概要） 日本の医療供給体制、医療保険制度、国民医療費の現状や特徴及び課題を、諸外国と比較しながら理解する。政策評価の一つの指標である臨床経済学的手法の基礎を理解する。保健・医療・福祉に関する制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と課題について議論する。同時に、自治体行政における保健・医療・福祉諸制度の現状、課題、今後の方向性についても理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（42 大久保 一郎／5回） 医療供給体制（施設数、医療従事者等）、医療保険制度、国民医療費、診療報酬制度の現状、課題などを理解する。また臨床経済学の基礎を理解する。</p> <p>（43 館石 宗隆／8回） 救急医療、災害時医療の特殊性、介護保険制度創設の理念と概要、認知症の人の支援のあり方、新しい成年後見制度の概要について理解する。</p> <p>（44 岡村 龍一／2回） 札幌市の健康福祉施策の概要と今後の展開、国民健康保険制度の現状と課題について理解する。</p>	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科連携科目	地域経済政策特論	地域に暮らす住民がより安全で快適にあるためには何が必要か。デザイン及び看護分野の高度専門職業人として、専門領域の知識に加えていかなる基本的知識を持てば地域社会に貢献できるのか。本講義では、経済学、経営学、財政学、社会学、行政学などの諸分野から、地域経済の運営に関する理論を抽出し紹介する。かつ、北海道、札幌という具体的な対象を想定し、これらの理論がいかに適用されるべきかを検討する。最後に、しばしば話題になる、地域創成に向けて“何をなすべきか”を考える。	
	ヒューマニティ特論	人文系教養(ヒューマニティズ)の3本柱である哲学・史学・文学の統合的な視点から、環境アメニティの本質について深く思索する。毎回、日本近現代の著名作家の小説の中から環境アメニティを追求した作品を1つ取り上げ、①そのテーマを具体的に認識し(文学)、②その社会的背景を歴史的脈絡の中で把握し(史学)、③そこから現代的意義を持つ思想を汲み取って批判的に吟味する(哲学)。こうした思索過程を辿ることにより得られる成果から、④今後の研究を展望する。	
	コミュニケーション特論	地域におけるデザイン及び看護分野のプロジェクトや地域活動の推進に求められるコミュニケーションの諸問題を学ぶ。地域住民との協働が必要とされる、立場・背景・世代・利害の異なる人々とのコミュニケーション及び小グループコミュニケーションの理論を学習し、それらを基礎とした問題の把握や解決の方法論について考える。具体的にはコミュニケーションの成否に関わる心理的、社会的、物理的要因や地域活動で直面する関係構築・維持、説得や対立状況の対処などの課題を取り上げる。	
	連携プロジェクト演習	本学大学院の教育・研究理念である“デザインと看護が連携した取組による地域貢献”を実現するため、デザイン研究科と看護学研究科が連携して行う授業である。ここでは、社会的・地域的課題に対して、デザイン及び看護双方の視点から焦点を定め、両研究科の知見を総合化して解決策を探り、継続的・発展的な取組により行政などへ提言することをねらいとしている。具体的には、両研究科の教員及び学生を混在させた小グループを編成し、グループ毎に社会や地域の抱える課題をフィールド調査・分析し、解決策を導出・展開、公開成果発表会などを通して行政や市民に広く提言する。	
専門教育科目	基本科目 デザイン特論	デザインは創造性に富むアイデアや知的資産によって地域の活性化に寄与することが求められている。そのため、地域の資源、産業、技術、経済、文化、生活の問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザイン提案を通じて、その解決策を構築する。ここでは、研究計画の立案の方法、課題の探索と絞込み、文献検討、仮説立案、分析と評価、理論的枠組みの構築を学び、地域活性化や産業振興を目指したデザインの基本となる考え方を理解する。	
	デザイン研究法	(概要) デザインに関する研究方法を「統計資料解析」「フィールドワーク」「実験系デザイン」の3つのテーマについて、専門教員によるオムニバス方式の授業から学習し、方法論への理解を深めるとともに、応用力を修得するものである。	オムニバス方式



## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 科目		<p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(7 中原 宏／5回) デザインを進めていく上で考慮すべき事象は多次元な要素で構成されていることから、物事を多元的に観察し、要素間の関係を捉える手法は重要である。このため、デザインに係る資料や社会統計指標を基に、指標間の構造把握や、データの背後に潜む要因を探索する方法について学ぶ。とくに、クラスター分析、因子分析、重回帰分析等の多変量解析法の理論に対する理解と、具体への応用能力の修得をめざす。</p> <p>(11 矢部 和夫／5回) 自然、特に植物群集を対象にして、フィールドワークにおける調査研究方法を体得する。群落景観の区分とその配列からパターンを認識し、この結果に基づいて効率的なサンプリングを行い、得られた資料を統計解析によって要約と分析を行う。これらの結果を考察することにより、群集変化の方向性とその動因を考慮しながら、群集を順応的に管理する方法を考究する。</p> <p>(16 柿山 浩一郎／5回) 従来の実験系デザイン研究では、物理計測と心理計測が主な対象であった。これに加え近年、人間そのものを対象とする生理計測が注目を集めている。精度の高い実験データが求められるようになった実験系デザイン研究事例を参照しながら、デザイナーの主観で行われがちなデザインを、客観的なデータにより裏付けることの重要性を理解するとともに、精度の高い実験データを取得する為の実験計画の構築能力を身につける。</p>	
	専門 教育科目	デザインマネジメント特論	<p>(概要) 地域創成を目指し、デザインマネジメント力によって地域資源を市場価値に変換し、地域ビジネスとして成立させるための視点や方法論について事例を検証しつつ学ぶ。外的・内的環境分析に基づき対象とする事業が市場での競争的優位性をもつかどうかの評価法、新たなニーズを開拓するためのユーザへのコミュニケーション方略等、マーケティングの視点を踏まえデザインの総合力を生かした分析とともに、異分野連携によるプロジェクトやベンチャービジネスを成功させるためのマネジメントについて実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(6 酒井 正幸／7回) 地域ビジネス創成のため、デザインの基本機能であるユーザニーズの発掘、ソリューションの提供、および学際的な組織による新ビジネス創成に向けてのプロジェクトマネジメントの3項目について学修する。ビジネスゲームや具体的地域資源を活用した新ビジネス提案を通じ、上記各機能相互の関連を確認しつつ体験的に修得する。</p> <p>(47 篠崎 雅春／8回) ビジネスにおけるデザインとはそれ自身が目的ではなく、商品・サービスの顧客価値を高め、適切なコミュニケーションを図るマーケティングの手段である。このような理解の下で、デザインを核とした新ビジネス創成に必要な経営戦略やマーケティングの知識や発想法を修得するとともに、事業企画提案書を作成する。</p>
展開 科目	建築計画特論	人間の社会生活と密接に関係する建築空間について、条件・課題と解決方法としての建築空間の関係や、思想的・文化的背景と建築空間の関係を、歴史的事例や現代の事例を通して考察を行う。それらを通して、現実の敷地や条件に基づいた具体的な建築空間について、計画条件・課題の定義から具体的な計画・設計手法の立案を行う能力を養うとともに、様々な計画の試行事例を通して、狭義あるいは広義の計画的意義を備えた建築のあり方を考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目  展開 科目	建築環境学特論	地域に備わる自然のポテンシャルを活かし、快適な建築環境システムを構築するための基礎理論とその応用方法を熱力学の概念に基づいて体系的に学ぶ。「ヒトー建築環境ー地域環境ー地球環境」の“入れ子構造”から成る各システムが持続的に活動するための条件を、エントロピー・エクセルギー理論に基づき理解する。自然のポテンシャルを活かす建築環境システムの性能を最大限に引き出すためには、ヒトの生理・心理・行動との調和が不可欠なので、それらの対応関係についても生理学・解剖学・心理学などの知見に基づき理解を深める。	
	建築構造デザイン特論	建築構造力学を踏まえて建築構造設計を行う際に必要とされる、静定構造物と不静定構造物の解析方法の基本を概説し、終局強度を含めた弾性範囲から塑性範囲にわたる材料特性を活かした建築構造デザインのあるべき姿を論じる。木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造等による建築構造デザインの原理的システムを修得し、建築意匠デザインや建築設備デザインをも統合する建築構造デザインの応用を論じる。	
	日本建築史特論	日本の歴史的な建築とその集合体である都市の史的展開過程を踏まえながら、日本の歴史的建造物における空間構成の歴史の変遷を古代、中世、近世、近代とたどり、建築デザインが時代的かつ地域的特質から発生し、配置・平面・断面・立面・意匠形式として確立し、固有の時代的・地域的な様式を構築する過程を明らかにしながら、日本建築のもつ特質を史的に解明する。	
	景観デザイン特論	地域創成に資する景観デザインについて、事例評価と景観形成について学ぶ。具体的には事例評価については、景観評価主体および自然・人文などの環境要因が与える影響について、地誌、歴史、土地所有・利用形態など様々な事例研究を通して、景観形成については、評価主体、評価対象、景観形成手法、制度設計などという視点から景観形成の評価基準と住民参加の理論と手法を学ぶ。また地図情報や住民意見などの統計分析手法とデザイン手法も学び、地域景観デザインを包括的に行える能力を涵養する。	
	地域環境評価特論	<p>(概要) 地域の環境を保全するためには都市と自然について、人にとって良好な状態に維持・整備することが必要である。都市と自然は、環境が大きく異なり、研究アプローチや、良質な環境の保全方策はそれぞれ大きく異なるが、今後、両者の調和した新たな環境を創造していく上で、これらの違う要素を統一的に考究することは大変意義深い。</p> <p>(オムニバス方式/全15回 )</p> <p>(7 中原 宏・11 矢部和夫/1回 ) 「これからの都市がめざすもの」「環境基本法のめざすもの」をテーマに本講義のねらい、目標を二人の担当教員から解説を行う。</p> <p>(7 中原 宏/7回) 都市は時間の経過とともにダイナミックに変容し続けているため、都市の構造把握と評価は計画立案上、極めて重要である。このため、都市空間の地域別現況を詳細に把握し、評価するための手法として、建物・土地利用指標、社会・経済指標データを活用した地域構造分析に係る各種手法や、シミュレーション手法について学ぶ。また、分析結果を地区カルテ、マップとして表現し、評価するシステム手法等について学ぶ。さらに、現在、都市を取り巻く状況が大きな転換期にあることから、都市空間の新たな価値と評価軸についても考究する。</p>	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目  展 開 科 目		(11 矢部 和夫／7回) 地域の自然(生物群集や生態系)は、人為的な攪乱を受けていないものもあるが、その大半は様々な強度や規模の人為的な攪乱を経験しながら、つねに変化するプロセスの中で二次的な自然として存在している。このような特性をわきまえながら、その状態や変化の方向を客観的に分析し、その価値を評価する方法を学ぶ。次に都市や農村に良好な自然状態に保持し創出する生物多様性緑化やビオトープ造成などの事業の上で、自然の分析や評価に基づいた管理方法を考究する。このような都市と自然という性格の異なる二つの環境の側面を学びながら、魅力ある地域を創出する方法を考究する。	
	環境共生デザイン特論	<p>(概要) 自然環境と人工環境が有機的に結びついた環境共生型地域デザインについて、前半9回は評価と計画手法について、後半6回はデザイン史とデザイン事例に関する講義を行い、多面的総合的に環境共生デザインを学ぶ。具体的には「環境首都札幌」の実現に資するための、エコシティ、地産地消といったサステイナブルデザインの理論・歴史・手法・事例を学ぶ。特に札幌圏の観光、環境、食、農などの地域産業におけるデザイン能力を涵養するため、自然環境の保全、活用、運営手法をはじめ、地域環境を形成するモノ、コトやシステムなどに関して、人々の暮らしやすさと地域社会や産業の持続可能性という評価基準から、様々なコミュニティや生活環境における多様な環境デザインが行える能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(49 一ノ瀬 友博／9回) 環境共生型地域デザインの評価と計画手法について学ぶ。具体的には人間の生存基盤としての自然環境、生物多様性保全、農村地域などの二次的な自然の保全などランドスケープスケールでの評価する視点に加えて、計画手法としてのビオトープ保護と計画やミチゲーションやエコロジカルネットワークを学ぶ。環境共生型地域デザイン全体を見渡し、エコロジカルデザインというスタンスから、種の再導入から社会的なイノベーションまで学ぶ。</p> <p>(50 鶴島 孝一／6回) 環境共生型地域デザインに関する、これまでの歴史的経緯を眺望し、デザインの事例研究を行う。具体的には、環境共生の理念とビジョンからサステイナブル・ランドスケープに至る具体事例を中心に、米国のランドスケープ・アーバニズム論考、サーフェイス・フォーマットの手法、自然環境の遷移の活用、環境共生を目指すタイム・シーケンス・デザイン、農に見る必然的風景デザインとオペレーション、ローカル・マテリアルと地域産業を基盤とするサステイナブル・ランドスケープについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
	環境マネジメント特論	<p>地域創成デザインにおいて環境問題に対応するには、経済社会活動における環境負荷を減らしていかなければならない。デザインプロセスにおける環境保全に配慮した活動を行う上で、有効なツールである環境マネジメントを学ぶ。具体的には環境にやさしい商品とサービス、関連する政策や規則、経費削減を含む管理体制の効率化などを体系的に学ぶため、ISO14001、グリーンカラー産業、グリーンニューディール施策、サービサイジング、地域密着型ビジネスなどの事例を学ぶ。それらの理論と手法を学ぶことを通して環境マネジメント能力を涵養する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目  展開 科目	製品造形特論	製品の材料を加工し、組み立て、より付加価値の高い製品を作り上げるという、ものづくりの基盤となる製品造形技法を修得する。製品の構造や形態などを調査・分析し、製品造形を評価する手法について学ぶ。また、近年は情報化社会の進展に伴う社会的価値観と生活様式の様々な変化により、従来型の機能本位な製品だけではなく、情緒的性能や感性的な評価が求められる傾向にあるため、そのような製品造形技法の在り方についても学ぶ。	
	製品評価特論	製品やサービスは、生活スタイルや文化背景等に基づく「ユーザの感性的評価基準」によって、個々のユーザ毎に異なる評価を受ける。近年多様化傾向にあるユーザ個々のニーズを満たすには、性能や価格といった評価基準に加え、この感性的評価基準を考慮する重要性が増している。本特論では、客観的・論理的な姿勢でユーザの感性的評価基準に配慮した設計を行う為に、製品やサービスに対する「人間そのものやその行為・動作」の記録・計測と、同時系列的な「人間の抱く印象値」との相関関係を探る評価手法を学ぶ。	
	メカトロニクス特論	本講義では、メカトロニクス技術の基本を学び、それらの機能や特長、および要素技術の役割についての理解を深める。企業や地域における様々な製品において、メカトロニクスがどのように応用されているかを取り上げ、それらの特長・課題を抽出し分析する。最新の応用技術や関連研究を学び、従来にない概念に基づく新しいメカトロニクス製品を創出するために必要な知識や技術を修得する。	
	インタフェースデザイン特論	ユーザのライフスタイルや嗜好、生活環境を理解した上で、公共設備機器・情報サービス、家電機器等のユーザインタフェースを事例に、それらが具備すべき視覚的認知要素、操作用語を含む情報提示形態、情報の階層構造、および物理的インタラクション方式などのインタフェースデザイン要件についての知識を学ぶ。また高齢者のQOL向上に向け、ユニバーサルデザインの視点からインタフェースデザインのユーザビリティ評価手法や開発プロセスを修得する。	
	インタラクションデザイン特論	高度情報社会においては、情報技術と人間生活とを結びつける関係性に目を背けるわけにはいかない。この関係性の構築には、効率や利便性はもちろんのこと、楽しみや愛着といった人間の感性への訴求力も求められる。本講義では、人間が情報技術との良質な関わりを持つためのコンテンツ創出を目指し、環境(外界)に潜在する情報抽出の手法、新たな表現へと転化する設計計画を論理的に導く方法を修得する。また、具体的なインタラクションデザイン提案を行うための技術シーズの活用について、実践的な指導を行う。	
	形状情報処理特論	自然が織り成す形や模様は自然界の様々な力や現象がお互い作用した結果、生成される。一方、情報機器などの人工物は機能性・操作性・審美性などの観点から外観が決定される。自然美の特徴を理解することは人工物を豊かに表現することに繋がる。ここでは、自然界・人工物の形の特徴を分析し、計算機モデルを構築、情報処理化する方法について学ぶ。すなわち、雲の形や雪の結晶・大理石模様などを複雑系手法(フラクタル・セルオートマトン等)で表現することを学ぶ。また、情報機器などの人工物形状の特徴を分析し、サーフェイス・ソリッド表現法でモデリングする知識や技術を修得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目  展 開 科 目	造形表現特論	近年、日本では人形・フィギュアやロボットなどの人間の形を有する造形物の開発が盛んに行われ、産業としては勿論のこと日本を象徴する文化として世界からも認知されている。これは日本人が世界でも類を見ない「人形を愛好する民族」であることに起因している。この授業では、様々な造形表現事例を通して、人間の形を有した造形物における表現材料から感情表現、それに伴う身体表現を研究し、人工物による感性表現に結びつけるために必要な知識や技術を修得する。	
	映像デザイン特論	日本経済を支えるコア産業として位置付けされるデジタルコンテンツの制作技術を修得する。ノンリニア編集の可能性は無限であり、映像と表現の可能性を探求し、実写、クレーンカメラを使用したクロマキー撮影、CG等さまざまな映像素材を駆使した作品表現について学ぶ。また物語に価値を付加する為の最も重要な要素であるシーン設定、キャラクター設定、エフェクト等のデザインと関連を理解し、企画プレゼンテーションから上映に至る制作の課程を学ぶ。	
	ビジュアルデザイン特論	ビジュアルデザインにおける情報の収集・整理・視覚化から認知までの考え方と手法および生活者のライフスタイル動向について、調査→企画提案そしてプレゼンテーションという一連のプロセスを通して修得する。サインピクトグラム、ビジュアルアイデンティティ(VI)、広告デザイン、地域活性化のためのブランディング提案などに注目し、メディアにおける情報伝達機能の側面と市場における価値創造など経済的な側面から社会の中で実際に機能するビジュアルデザインを確認する。	
	現代芸術特論	マルセル・デュシャン以降の現代芸術の基本理念を理解し文脈を構築する。それらを踏まえて同時代である現在の芸術に主眼をおいて創造都市のツールとなりえる同時代の動向を示し、アートと人々を繋ぐコミュニケーションアート、イベント性のあるパブリックアート、地域活性化のトリエンナーレやビエンナーレの創出などを検証する。	
	メディアプロデュース特論	社会や人々の心に大きな影響を与えるメディア。TV、ラジオ、新聞などの3大メディアから、21世紀型のインタラクティブメディア(インターネット、携帯電話、ゲームなど)の登場でメディアは多様化し大変化した。その多様化するメディアと自分たちの(心理、社会、ビジネス)の関係はどのように変化し得るのか。また、それらメディアやコンテンツはどのようにプロデュースされ、世の中にコンテンツを届けているのだろうか。メディアの仕組み、ビジネスモデル、コンテンツとメディアの関係、送り手と受け手それぞれの社会的、心理的力学など、多様に絡み合うメディアのメカニズムをひもときながら、メディアとコンテンツをどのようにプロデュースして行くか。メディアエンターテインメントビジネスでの独自の理論を講義しつつ、学生には思考・実験・提案を身に付け、実践に活かすための新たな仮説、理論を研究することを目的とする。	
	地域ブランド構築特論	ブランド構築の基本として日用品から高級品に至る製品ブランドと企業ブランドに関する講義を最初に行い、次に地方の農産物や特産品、さらには観光振興に必要な「地域ブランド」の構築手法に関する講義へと進む。経営学的な知識をあわせて修得し、受講者が将来、デザイン分野でベンチャーやNPOを起業したり、企業においてデザインを基軸にしたイノベーションに携われるような議論を展開する他、官庁や自治体において地域イノベーションを進める際に有効な枠組みを提供する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	展開 科目	<p>デザイン特別演習</p> <p>(概要) 各特論科目で学ぶデザイン理論を実践的に展開し、理論・実践の修得を深化させ、特別研究に繋げることを主眼とする。ここでは、担当教員から与えられるデザイン課題について、文献調査、フィールド調査・分析、実証実験、あるいは作品制作・模型製作などを実践し、その成果発表や討論を通して、修士論文、あるいは修士制作及び修士制作報告書、または特定課題研究報告書の作成に必要な調査・分析能力、実証実験スキル、デザイン感性・作品制作スキルや企画提案能力などを養成する。併せて、高度なプレゼンテーション・ディベート能力を養成する。担当教員ごとの課題は以下のとおりである。</p> <p>(1 原田 昭) 地域潜在力を資源として、デザイン技術を駆使した創造的価値形成による、新たな地域サービスの設計に関する演習を行う。</p> <p>(2 城間 祥之) 形状情報処理特論で学ぶ複雑系手法（フラクタル・セルオートマトン等）の数式を基に、自然界の織り成す形や模様をコンピュータ・プログラミングで表現する演習を行う。併せて、3次元物体形状を計算機内にモデリングし、軸測投影法や透視投影法等で表示する演習を行い、プログラミング言語をデザイン表現ツールにする応用力を修得する。</p> <p>(3 石崎 友紀) 現代生活に不可欠な工業製品を主な対象として、製品造形における問題点を見つけ、解決への方法論を探る演習を行う。</p> <p>(4 上遠野 敏) 現代芸術に関する領域から創造都市のツールとして、アートと人々を繋ぐコミュニケーションアート、イベント性のあるパブリックアート、地域活性化のトリエンナーレやビエンナーレの創出などを企画実践する演習を行う。</p> <p>(5 齋藤 利明) 造形制作における感情表現やそれに伴う身体表現を対象として、人工物による感性表現に結びつける演習を行う。</p> <p>(6 酒井 正幸) 生活または産業分野からインタフェースデザイン対象テーマを選択し、人間中心設計(Human Centered Design)の視点からユーザビリティ評価を含む実践的分析と考察を行う。</p> <p>(7 中原 宏) 都市の空間構造を把握し、評価する技法を修得するために、具体的な都市の多様な小域区分データを用いて、土地利用構造や社会構造等に係る分析やシミュレーションを行う。また、分析結果を地区カルテやマップとして表現する技法や、地区のポテンシャルを評価するシステムの構築に係る演習を行う。</p> <p>(8 羽深 久夫) 日本建築史における歴史的建造物をもつ建築形式の特徴の歴史的展開過程を理解するために、具体的な歴史的建造物を対象に実測調査及び資料調査を行い、その空間構成の歴史的変遷をたどりながら、建築形式の特徴を把握するための演習と歴史的建造物の保存・再生に関わる手法を修得する演習を行う。</p> <p>(10 望月 澄人) デジタルコンテンツにおける合成映像表現を対象として、シーンデザイン、素材制作、撮影と編集に関する演習を行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目 専門教育科目		<p>(11 矢部 和夫) 都市周辺域における人為的な攪乱を受けた自然を対象として、生物群集の調査・分析とその生態学的な特性の評価に関する演習を行う。この演習によって都市の自然の質を評価し管理するための基本的な手法を体得させ、生態系の保全・修復やビオトープ創出の研究につなげていく。</p> <p>(12 吉田 和夫) ビジュアルデザインの視点からブランディングを捉え、ビジュアルアイデンティティ（V I）計画と広告デザインにおける視覚化から認知までの考え方と手法、および実践的なテーマに沿った情報収集・課題整理・企画制作提案という一連のプロセスを演習する。</p> <p>(13 吉田 恵介) アーバンあるいはアーバンフリンジにおける住民が関わる景観保全と創造のプロジェクトに参画し、環境デザインやランドスケープ手法による演習を行う。景観デザイン論を踏まえて地域や都市環境の自然・人文・景観の評価・分析・デザイン提案を行う専門的能力を養う。</p> <p>(14 細谷 多聞) インタラクションデザインのさまざまな設計要件を満たし、それらを具現化するための設計技術を実践的に扱うとともに、具体的な実験制作課題に取り組む。</p> <p>(16 柿山 浩一郎) 本演習は、製品評価特論にて学んだ、製品やサービスに対する「人間そのものやその行為・動作」の記録・計測と、同時系列的な「人間の抱く印象値」との相関関係を探る評価手法を考案することを目的としている。まず、社会的に評価されている具体的なデザイン事例をあげ、それらの評価基準を自ら定義する。その上でこの評価基準を測定する手法を提案・開発し、実際の計測で得られたデータを検証する。</p> <p>(17 齊藤 雅也) 地域に備わる自然のポテンシャルを活かし、快適な建築環境システムの計画設計に関わる演習を行う。具体的には、照明や暖冷房などの建築環境システムを構成する技術とヒトの生理・心理・行動プロセスの対応関係を理解するために、光・温熱環境の実測や数値シミュレーション等の演習を行う。演習を通して得られた知見を地域に根ざした建築環境システムの計画設計に反映させる。</p> <p>(18 那須 聖) 建築計画特論を踏まえ、現代社会の具体的なデータに基づいた建築空間の計画・設計を題材として、現代の地域的、国際的な現象の発見・分析に基づき、それらの現象を批評的に、解決あるいは発展させる建築空間の提案を行う。また、計画・設計のプロセスを通して建築設計者としての専門的能力を養う。</p> <p>(19 三谷 篤史) センサやアクチュエータ、マイコンなどのメカトロニクスが組み込まれた機構のシステムデザイン演習を通して、駆動原理や制御理論を理解し、新しい機能を有するメカトロニクスデザインのための基礎的な技術を養う。</p>	
実践科目	地域プロジェクト演習	デザイン総合力、マーケティング力、造形力、コミュニケーション力等大学での学修成果を総合的に活用し、地域を中心とする外部提携先（民間企業、官公庁、他大学、NPO等）との連携による具体的プロジェクト推進に参画し、実践的能力を育成する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	地域創成デザイン特別セミナーA	街づくりを中心とした地域創成に関わるデザインの現状と今後の展望について、行政機関や産業界の専門家等をゲストスピーカーとして招き、コーディネーター教員及び学生を加えた3者によるディスカッションを行う。特に、札幌市が進めている街づくりの現状から課題を抽出し、課題の解決策を見つけ出すプロセスをディスカッションを通じて修得する。	
	地域創成デザイン特別セミナーB	道内外の様々な産業分野の地域創成に関わる活動経験者・有識者をゲストスピーカーとして招き、コーディネーター教員および学生を加えた3者によるディスカッションを行う。特に地域資源の掘り起こしからそれをビジネスにつなげるためのマーケティング方法論、技術移転・起業および異分野の人材を横断的にとりまとめるプロデュースのノウハウについても実体験に基づくディスカッションを通じて修得する。	
	インターンシップ I	研究科連携科目、専門科目の授業を踏まえ、社会における実務を実習経験することにより、専門科目における講義、演習にわたって学んだ理論と応用を実体化、総合化することを図る。事前にガイダンスや実習先の実務内容の講習を行った上で、実習を行い、事後は報告書作成と報告会を行う。	
	インターンシップ II	インターンシップ II は、大学院修了後、一級建築士の資格取得を目指す学生を対象に開講する科目であり、自由科目として開講する。インターンシップ I において行った実務実習を踏まえ、設計事務所、建設会社等においてより実務的な実習を行い、理論と応用の実体化・総合化を図る。事前にガイダンスや実習先の実務内容の講習を行った上で、実習を行い、事後は報告書作成と報告会を行う。	
専門教育科目	特別研究	<p>(概要) 修士論文、あるいはそれに相当する修士制作及び修士制作報告書、又は特定課題研究報告書を作成するための研究指導を受ける科目である。ここでは、特論科目で学んだデザイン理論やデザイン特別演習で修得した実践力を総合化し、研究課題の発見、関連研究の文献調査やフィールド調査・分析を行い、さらに問題・課題解決法の提案、実証実験、模型製作、デザイン作品制作などの一連の研究活動を通してその成果を修士論文、あるいは修士制作及び修士制作報告書、または特定課題研究報告書にまとめ、公開発表することを学ぶ。研究指導教員ごとの研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>(1 原田 昭) 地域潜在力を資源として、デザイン技術を駆使した創造的価値形成による、新たな地域サービスの設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 城間 祥之) デジタルコンテンツのヴィジュアル素材となるかたち・模様・テクスチャーや幾何形状の表現法および制作法等に関する研究課題から選定された研究テーマについて、研究指導を行う。</p> <p>(3 石崎 友紀) 現代生活に不可欠な工業製品を対象として調査、分析を行い、問題点を見つけ出し、解決方法を提案することを目的とした研究指導を行う。</p> <p>(4 上遠野 敏) 現代芸術に関する領域から創造都市のツールとなる研究課題を取り上げ、調査・分析及び制作を行い、その有効性を検証させながら研究指導を行う。</p>	
修了研究			



## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 修了研究		<p>(5 齋藤 利明) 造形表現に関連する研究課題を見だし、研究および制作プロセスを実践し、造形表現に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 酒井 正幸) インタフェースデザイン分野において学生自らが選定した研究テーマに対し、調査分析・コンセプト立案・検証の各プロセスを踏まえた研究指導を行う。</p> <p>(7 中原 宏) 都市の地域構造分析や市街地再生計画に関連する研究課題について考究し、研究テーマを発見するとともに、実践的な研究プロセスを通して研究成果をまとめるための研究指導を行う。</p> <p>(8 羽深 久夫) 建築史分野における都市の史的展開、および歴史的建造物の歴史の変遷と建築形式の特徴を解明すること、ならびに都市の構成要素にもなる歴史的建造物の保存・再生の方法を構築するために、必要な実践的な調査研究方法を指導して、日本建築史を中心とした建築史全般に関わる研究課題についての研究指導を行う。</p> <p>(10 望月 澄人) 映像表現の分野を研究課題とし、アートディレクションを中心に発案から上映まで映像制作における総合的な研究指導を行う。</p> <p>(11 矢部 和夫) 地域の自然を評価し保全する方法の開発を研究課題とし、群集・生態系の分布と環境の関係や組成と構造について調査分析を行い、対象の修復や創出のために必要な管理方法を構築できるように研究指導を行う。</p> <p>(12 吉田 和夫) ビジュアルデザインの持つ、メディアにおける情報伝達機能の側面と市場に於ける価値創造など経済的な側面から課題を探り、実践的な研究指導を行う。</p> <p>(13 吉田 恵介) 様々な地域課題の中から、具体的な地域環境の自然・人文・地域景観などの調査・分析・評価・考察のプロセスを通して、環境デザイン・設計の企画力・総合力を多面的、系統的にできる研究指導を行う。</p> <p>(14 細谷 多聞) インタラクションデザインを成立させる要素の発掘を、生物、環境、及び技術等から追求する研究課題に取り組む。また、これらを表現に結びつける「実験提案」を目指した研究指導を行う。</p> <p>(16 柿山 浩一郎) 人間が製品やサービスの善し悪しを判断する際の、時代に即した評価基準を自ら構築する独自のテーマを研究課題とする。具体的なデザイン評価事例の制作と、その評価実験から得られる実験データの分析・考察を通して、独自の知見(評価基準)をまとめる研究指導を行う。</p> <p>(17 齋藤 雅也) 建築環境システム全般に関する個別の問題意識を精錬し、研究課題の発見、研究計画の立案、実測調査・数値解析、研究成果のまとめまでの一連のプロセスを研究指導する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	修 了 研 究	<p>(18 那須 聖) 建築計画、建築設計、建築意匠分野において、建築の構成形式を研究課題とし、構成形式のデザインプロセスや意味・価値について学生の個別のテーマに基づき研究指導を行う。</p> <p>(19 三谷 篤史) 独創的なデザインコンセプトに基づく製品の提案を研究課題とし、提案された製品のメカトロニクス応用による機能実現とその評価に関する研究指導を行う。</p>	